

No	講座名・講座内容	講師所属・役職	講師名	講座時間	講座対象								出前範囲	WEB対応	ご準備いただきたい機材						
					小学生 低学年	小学生 中学年	小学生 高学年	中学生	高校生	大学生	社会人	その他									
29	<p><u>建て替えられない状況を改善する ～まちづくり誘導手法による密集市街地整備～</u></p> <p>密集市街地の街区内部(アン)は狭隘道路と狭小敷地で構成されているため、建築物を建て替えようとすると建築基準法の集団規定(接道義務、道路斜線制限、建ぺい率制限等)に適合させることが困難な場合が多く見られ、結果的に建て替えが進みにくいケースも見受けられます。しかし、街並み誘導型地区計画、建ぺい率特例許可、連担建築物設計制度等の各種のまちづくり誘導手法を活用した建築物の建て替え誘導、促進に取り組み、地区の防災性向上に効果を上げている例があります。本講座では、密集市街地において、まちづくり誘導手法を活用して建て替えを促進する方法について、具体事例を交えつつ紹介します。</p>	都市研究部長	勝又 済										行政関係者	全国	○	<p>パソコン用プロジェクト</p> <p>参考資料:国総研資料 No.1076『密集市街地整備のための集団規定の運用ガイドブック ～まちづくり誘導手法を用いた建替え促進のために～【令和元年6月改定版】』 ((国総研HP https://www.nilim.go.jp/lab/bcg/siryuu/tnn/tnn1076.htm)からダウンロード可)</p>					
30	<p><u>密集市街地のまちづくり</u></p> <p>我が国には地震時等に著しく危険な密集市街地が全国で約2,200ha(令和2年)存在し、これらを令和12年に概ね解消することが新たな「住生活基本計画(全国計画)」(令和3年3月19日閣議決定)の目標に掲げられています。本講座では、密集市街地は何か問題なのか、どのような地域に分布しているのか、どのような特徴があるのか等、密集市街地の実態について解説するとともに、問題を解決するためのまちづくり方策について、実際の取り組み事例を交えつつ紹介します。</p>	都市研究部長	勝又 済										○	○	一般市民	全国	○	パソコン用プロジェクト			
31	<p><u>交通ビッグデータ等の新技術を活用した、都市のコンパクト化・ウェルビーイング向上に向けた取り組みの考え方</u></p> <p>携帯電話基地局データなどの信頼性の高い「交通ビッグデータ」の活用により、都市における人の流動が高度に把握・予測できるようになってきており、また一方で、自動運転などの新技術により、持続可能な全く新しいモビリティネットワークが計画・構築できるようになってきているなど、多様なニーズを踏まえた暮らしやすい都市づくりに貢献するツール環境が近年急速に整ってきています。そこで、これらの要素技術の可能性とあわせ、持続可能な都市のコンパクト化・ウェルビーイング向上に向けた取り組みの方向性についてご紹介します。</p>	都市研究部 都市施設研究室 室長	新階 寛恭										○	○	○	行政関係者 民間技術者	関東周辺	○	<p>パソコン用プロジェクトまたは大型モニター(できればHDMI接続)、レーザーポインタ</p>		
32	<p><u>統計データと地図でみる都市構造の変遷</u></p> <p>人口減少期において財政制約や環境負荷制約が高まる中、持続可能な都市の形態の1つとして集約型都市構造への転換が求められています。自分たちが暮らす街がどのような構造なのか、国勢調査による人口の分布や商業統計による販売額の分布などの各種統計データと地図を使って1970年代から現在までの変遷を紹介します。</p>	都市研究部 都市計画研究室 室長	石井 儀光										○	○	○		全国	○	パソコン用プロジェクト		
34	<p><u>都市建築の経済と時事問題</u></p> <p>都市建築の経済(経済的観点からみた都市建築・社会資本等)に関連する時事的課題としてのトピック(公共投資の動向・効果、都市の競争力(ランキング等)、不動産価格動向等)を採り上げ、各種経済報告(月例経済報告、GDP統計、日銀短観や各種経済指標等)などとの関連を見ながら社会経済の動向を考察します。</p>	都市研究部 都市計画研究室 特任研究官	小俣 元美												○		全国		パソコン用プロジェクト		
35	<p><u>住まいとまちの水害対策</u></p> <p>近年の水害の頻発化・激甚化などから「流域治水」への政策転換が図られ、河川施設や下水道施設の整備などの対策に加えて、浸水リスクの高い地域での住まい方の工夫や建築・土地利用の規制・誘導などの、建築・都市分野での対策が重要な役割を担いつつあります。このような住まいとまちの水害対策への社会的要請が高まっている状況の背景や考え方、実施されている様々な取り組み、今後に向けた課題などについて紹介いたします。</p>	都市研究部 都市防災研究室 研究官/国総研シニアフェロー	木内 望										○		一般市民 行政関係者 建築関係者 など	全国	○	パソコン用プロジェクト			
36	<p><u>まちなかの各種パブリックスペース・モビリティの役割と有機的連携によるエリア価値向上の可能性</u> <u>～地域資源を活かしたライフスタイル提案型のアーバンデザイン～</u></p> <p>まちなかの街路、広場、公園、河川、公共空地等のパブリックスペースは、誰に対しても開放された空間であり、人々の生活動線、多様な活動の拠点、周辺の土地利用促進、日々の営みの中での都市文化・地域性の醸成への貢献など、滞在者にとって重要な役割を担っています。また、まちなかのモビリティも重要で、近年はBRTやグリーンズローモビリティなど、様々な地域の資源や人々を繋ぐ新たな公共交通が普及しつつあります。それぞれの施設・機能の特性と、近年の全国における官民連携による空間再編プロジェクトの動きをふまえて、物理面、活動面、心理・社会面等からみた具体の役割を紹介するとともに、今後の効果的なまちづくりの展開として、有機的連携効果の活用方策と、継続的な実施による波及・相乗、そしてエリア価値向上への展開可能性について紹介します。</p>	都市研究部 都市施設研究室 主任研究官	小笠原 裕光		○	○	○	○	○	○	○				○	○	○	一般市民 行政関係者 まちづくり団体 民間技術者 など	全国	○	パソコン用プロジェクト
37	<p><u>ABP Challenge(Activity Based Planning Challenge)</u> <u>～新たな交通行動分析手法を活用した都市交通プランニングの実現戦略～</u></p> <p>国総研では、都市生活者の個人単位の1日の活動・移動を再現し交通行動の将来シナリオ分析等が可能なアクティビティ・ベースド・シミュレータ(ABS)を活用し、Well-beingと持続可能性を両立した都市交通のプランニングを実現するため、全国の自治体・民間・大学等の関心層と取り組む共創プロジェクトに取り組んでいます。プロジェクトの解説と現在の到達点、そして近未来のマスタープランニングのあり方について紹介します。</p>	都市研究部 都市施設研究室 主任研究官	小笠原 裕光												○	○	一般市民 行政関係者 まちづくり団体 民間技術者 など	全国	○	パソコン用プロジェクト	

No	講座名・講座内容	講師所属・役職	講師名	講座時間	講座対象								出前範囲	WEB対応	ご準備いただきたい機材	
					小学生 低学年	小学生 中学年	小学生 高学年	中学生	高校生	大学生	社会人	その他				
44	<p><u>都市空間の魅力の増進(居心地の向上や活気・賑わいの創出)</u></p> <p>都市のサステナビリティや地方創生・都市再生・中心市街地活性化等のために、都市空間の魅力を増進(居心地の向上や活気・賑わいの創出)することへの注目が高まり、「居心地が良く歩きたくなる」まちづくり～ウォーカブルなまちなかの形成～」等の取り組みが広がってきています。オープンスペースの居心地の向上や活気・賑わいの創出、補助金に依存しない自律的継続的な民間主導まちづくり活動の支援の仕方、歩行空間の「利用」と「利用を前提としたデザイン」、デザインと事業性の両立などに関する基礎的な考え方について、「十二表法」(紀元前450年頃)から現代まで約2500年間の主要文献をレビューし、国土交通省・UR都市機構・実務者・建築学会・大学・大学院デザイン専攻者等への講義等を行ない、国土交通省「プレイスメイキング・シンポジウム2014」「ストリートデザインガイドライン(2020年3月)」等を政策企画立案・技術支援した担当者をご紹介します。</p> <p>初学者向け(90分程度、WEB開催可)には筆者レポートを用いるほか、都市デザインに係る行政関係者や社会実験を行なう都市計画コンサルタント等向け(1.5～2.0日、対面)にはプレイスメイキング・景観工学等を社会実装するための基礎的事項に係る座学・実技指導、大学・大学院のデザイン専攻者向け(1コマ程度、対面)には、ウィトル＝ウィウス『建築書』(紀元前30年頃)以降のバイオニアのデザイン関連主要文献・論文(芦原義信、ヤン・ゲール、北原理雄、クリストファー・アレグザンダー、イアン・ペントレイ、佐藤圭二、渡和由、鈴木俊治、デビッド・シム、島原万丈など)、英国・NYCのデザインガイドライン等を課題図書とし、実際の記述を確認しながら、具体的な形質・寸法、社会実装の事例、経済効果等について学び、実務に携わるための総合的視点を養います。</p>	社会資本マネジメント研究センター 建設経済・環境研究室 室長	富田 興二								○	○	パブリックスペース・パブリックライフ関係者 都市デザイン関係者 行政関係者・研究者・教育者・出版関係者 大学・大学院デザイン専攻者	全国	○	パソコン、パソコン用プロジェクト、インターネット通信環境、レーザーポインタ(対面の場合) 参考資料: 初学者向け筆者レポートとして、島原万丈、富田興二ほか共著(2015)「Sensuous City[官能都市]」 一身体で経験する都市: センシユアス・シティ・ランキング」(9. 都市政策の立脚点は”アクティビティ”である) (LIFULL HOME'S総研HP https://www.homes.co.jp/souken/report/201509/)からダウンロード可)
45	<p><u>都市の防災性を高める都市公園(防災公園)の整備・管理</u></p> <p>私たちの身の回りにある都市公園は、平常時は休息やレクリエーションの場などに利用されていますが、地震等の災害時には被害の軽減や避難、救援、復旧・復興活動の場などとして機能を発揮します。その一方、このような機能を十分に発揮させるには、整備・管理それぞれの面における工夫や注意が必要です。このことについて、実際に発生した災害時にみられた例も紹介しながら、具体的な説明を行います。当室が地域の防災力向上に役立つよう市民 向けに作成した「身近な公園 防災使いこなしブック」の内容も紹介します。</p>	社会資本マネジメント研究センター 緑化生態研究室 室長	小島 孝文	約1時間				○	○	○	○	行政関係者	全国	○	パソコン用プロジェクト	
46	<p><u>街路樹の役割と維持管理</u></p> <p>街路樹は、緑陰や良好な景観の形成、生活環境及び自然環境の保全、交通安全、防災など多岐にわたる機能があるほか、地球温暖化問題が深刻となっている現在では都市域の二酸化炭素の吸収源としての役割も期待されています。本講座では、これらの役割について説明するとともに、街路樹を適切に維持するために必要となる点検・診断方法などについて解説します。</p>	社会資本マネジメント研究センター 緑化生態研究室 主任研究官	飯塚 康雄	約1時間							○	一般社会人、行政関係者、造園業関係者など	全国		パソコン用プロジェクト	
47	<p><u>景観まちづくり: 身近な景観の評価とデザイン</u></p> <p>より充実した時間を過ごすための一つの方法として、自分の住むまち、働くまちをよく知るために、まちの歴史と風景の捉え方を紹介します。また、そうした風景を支える景観法や歴史まちづくり法などの説明と、景観まちづくり、歴史まちづくりなどに取り組む各地を、事例を通じて紹介します。行政関係者向けには、事例を通じてより具体的な取り組み方を紹介します。</p>	社会資本マネジメント研究センター 緑化生態研究室 研究官	田中 稜	約1時間						○	○	行政関係者 など	全国	○	パソコン用プロジェクト	
48	<p><u>グリーンインフラについて</u></p> <p>グリーンインフラは、自然環境が有する様々な機能を社会における様々な課題解決に活用しようとする考え方であり、多くの地方公共団体や民間企業で取り入れられている。本講座では、グリーンインフラがどのような機能を果たせるか、どのようなものが整備されているかについてグリーンインフラの整備事例を中心に紹介する。</p>	社会資本マネジメント研究センター 緑化生態研究室 研究官	金 甫炫	約1時間							○	行政関係者 など	全国	○	パソコン用プロジェクト	